

2026 年度（令和 8 年度）愛知学泉大学 入試問題出題方針

科目名：生物基礎（一般選抜）

1. 出題方針

・方針

新過程の「生物基礎」の項目に沿った内容とし、満遍なく広く出題する。特に用語を問う問題は理論を理解したうえで該当する語句を、さらに、図を見て思考力・理論を問う問題、基礎的な計算力を問うよう出題する。高校での学習の到達度を測る内容とするため、高校生物基礎の教科書の全範囲から偏りのない出題を行う。2021 年度入試から「学力の 3 要素（①知識・技術 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）」を多面的・総合的に評価する入試に転換されたことから、①は本学のアドミッションポリシー(A-1)について、また、②はアドミッションポリシー(A-2)について評価できる出題内容に留意するため、各分野（大問 1 題）のなかで、論述問題は必ず 1 問は作成するよう、また、全体の中で計算問題は複雑でないものを、多くとも 2 問までとする方針である。

・出題範囲

	大問分野	左記の大問 4 題を出題範囲とし、愛知学泉大学における過去 3 年分と同一問題は出題しない方向、また、出題内容「高校生物基礎」の異なる教科書の 2 冊に扱われていることを確認する。
1	生物の特徴	
2	遺伝子とそのはたらき	
3	ヒトの体の調節	
4	生物の多様性と生態系	

2. 出題形式（問題数、問題構成など）

〈問題数〉

・高等学校学修指導要領の改訂に沿って、大問 4 題（1. 生物の特徴、2. 遺伝子とそのはたらき、3. ヒトの体の調節、4. 生物の多様性と生態系の 4 分野）、各分野 10 問で全回答数 40 問とする。

〈問題構成〉

・高等学校学修指導要領における言語活動（説明、論述、討論等）を踏まえ、論理的な思考力・判断力・表現力等を適切に評価するため、必要な問題を課す。特に、論述問題は各分野（大問 1 題）のなかで 1 問は必ず出題した。さらに、論理的思考力の判断のため、計算問題・模式図・実習・実験の反応における読み取る力、理論を問う問題を出題する。また、「発展」以外の「参考」「実習」「実習から」などの部分は出題範囲とし、これらで扱われている主題における操作の目的や結果から考察されることを問い、学力の 3 要素の①および②を測るものとする。

3. 傾向と対策

高等学校卒業レベルの基礎学力を身につけているか、また、出題文の読解力はもとより、知識・技能を活用して問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等について、それらを利用し他者にも分かり易く説明できる能力を有しているか、その一端をはかるため、基礎的・基本的な知識・技能について、また、示されている内容を理解できる、あるいは図に表現することができる。さらに、教科書の「参考」「実習」「実習から」などの部分については、図表から読み取る力、実験方法や操作の意味、高校までの基礎的な計算問題も理解できるようにしておくことを求める。これらの出題によって、生物基礎における高校での学習到達度をはかることとする。